



TITLE:

彙報

AUTHOR(S):

CITATION:

彙報. 東南アジア研究 1965, 2(4): 125-128

ISSUE DATE:

1965-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/55006>

RIGHT:

彙 報

東南アジア研究センター管理委員会名簿
 東南アジア研究センター管理委員会開催日および議題
 東南アジア研究センター常任委員会名簿
 東南アジア研究センター常任委員会開催日および議題
 東南アジア研究センター運営協議会開催日および議題
 東南アジア研究センター研究担当者追加
 東南アジア研究センター後援会理事会開催日
 東南アジア研究センター第2年度現地調査計画追加
 東南アジア研究センター第3年度（昭和40年度）養成
 計画による海外留学生
 研究例会記事
 国外からの訪問者
 関係者往来

東南アジア研究センター管理委員会名簿

（昭和40年1月31日現在）

委員長	農学部	小林 章
副委員長	人文科学研究	森 鹿 三
委員	文学部	井上 智 勇
〃	教育学部	重 松 俊 明
〃	法学部	田畑 茂 二 郎
〃	経済学部	岸 本 英 太 郎
〃	理学部	速 水 頌 一 郎
〃	医学部	堀 井 五 十 雄
〃	薬学部	上 尾 庄 一 郎
〃	工学部	藤 本 武 助
〃	教養部	柴 田 実
〃	研究センター所長	岩 村 忍
幹 事	庶務部	住 友 睦
〃	経 理 部	西 間 木 久 郎

東南アジア研究センター管理委員会

開催日および議題

昭和39年11月10日	「他大学との交流について」
昭和39年12月14日	議題なし
昭和40年1月26日	「東南アジア研究センター機構 改革について」
	「昭和39年度自然科学部門研究

計画の一部変更について」

東南アジア研究センター常任委員会名簿

昭和40年1月31日現在

所長	人文科学研究 所教授	岩村 忍	
常任 委員	文学部教授	織田 武雄	調査研究部 人文・社会科学研 究部主任
	文学部教授	泉井久之助	
	教育学部教授	相良 惟一	総務部副主任
	法学部教授	猪木 正道	調査研究部 人文・社会科学研 究部門副主任
	経済学部教授	堀江 保蔵	総務部主任
	理学部教授	芦田 譲治	
	医学部教授	西尾 雅七	
	薬学部教授	木村 康一	調査研究部 自然科学研究部門 主任
	工学部教授	滝本 清	
	農学部教授	四手井綱英	調査研究部 自然科学研究部門 副主任
	農学部教授	川口桂三郎	
	教養部教授	柴田 実	
幹事	医学部教授	西占 貢	
	農学部助教授	本岡 武	
	教養部教授	吉井 良三	

東南アジア研究センター常任委員会

開催日および議題

昭和39年11月18日	東南アジア留学生選考について
昭和39年12月15日	マレーシア・インドネシア・コ アプロジェクトリーダーの後任に ついて
昭和40年1月8日	1. 研究センターの官制化につい て 2. 昭和39年度自然科学部門研究 計画の一部変更について

東南アジア研究センター運営協議会

開催日および議題

昭和40年1月18日

1. 研究センターの機構改革について
2. 昭和39年度自然科学部門研究計画追加について
3. 研究担当教官について
4. 学外者の研究参加者について
5. 東南アジア留学生選考試験結果について

東南アジア研究センター研究担当者追加

(昭和39年9月21日から昭和40年1月31日まで)

1. 研究担当教官追加

部局名	職名	氏名	研究内容
理学部	助教授	田川基二	東南アジアの植物相の調査および研究
農学部	教授	三井哲夫	東南アジアにおける有用生理活性をもつ植物の調査とその成分の化学的研究
化学研究所	〃	水渡英二	東南アジアにおけるゴム加工の調査研究

2. 学外研究参加者追加

所 属	氏 名	研 究 内 容
京都大学名誉教授	上田弘一郎	東南アジアにおける竹林の生態学的研究（東南アジアにおけるパルプ用竹林の経済に関する研究）
財団法人アジア救 ライ協会医務部長	戸田圓二郎	タイ国におけるライの臨床および病理学的調査研究
関西大学文学部 教授	藤本勝次	マラヤ・インドネシアにおけるイスラム教の研究
帝塚山大学 助教授	伊原吉之助	東南アジア近代化の比較史的研究
大阪市法学部 教授	神谷不二	東南アジア諸国の政治指導における軍の役割および政軍関係の調査研究

東南アジア研究センター後援会理事会

開催日

昭和40年1月25日

東南アジア研究センター

第2年度現地調査計画追加

I 社会科学部門

2. マレーシア・インドネシア地域研究計画（調査員追加）

追加：築島 謙三 東京大学東洋文化研究所講師

調査期間 昭和39年10月～昭和

40年3月

3. 東南アジア諸国における政治組織と政治過程の比較研究（調査員追加）

追加：高坂 正堯 京都大学法学部助教授

調査期間昭和40年1月～2月

8. 東南アジアにおける仏教教団の実態調査（調査員追加）

追加：藤本 勝次 関西大学文学部教授

調査期間昭和40年1月～3月

II 自然科学部門

1. タイ国における「ライ」の実態にかんする調査研究（調査員異動）

取消し：岡田誠太郎 京都大学医学部助教授

追 加：戸田圓二郎 財団法人アジア救ライ協会
医務部長

調査期間昭和39年11月～昭和

40年2月

5. 東南アジアにおける広域水利にかんする調査（調査員追加）

追加：南 勲 京都大学農学部助教授

調査期間昭和40年3月

8. 東南アジアにおける地下水にかんする研究（計画追加）

松尾新一郎 京都大学工学部教授

調査期間昭和39年12月～昭和40年1月

東南アジア研究センター第3年度（昭和40年度）養成計画による海外留学生

9. タイ・マレーシア両国の山地の生物、洞くつの生物の調査（計画追加）
荻野 和彦 京都大学大学院農学研究科博士課程（林学専攻）留学希望大学 米国シラキュース大学
吉井 良三 京都大学教養部教授
石毛 直道 京都大学大学院文学研究科修士課程（考古学専攻）留学希望大学 オランダ・ライデン博物館
調査期間昭和40年3月～4月
10. タイにおける植物相の研究（計画追加）
田川 基二 京都大学理学部助教授
高木 英明 京都大学教育学部助手
留学希望大学 米国インディアナ大学
調査期間昭和40年3月～4月

研究例会記事（昭和39年11月1日から昭和40年1月31日まで）

年 月 日	講 演 者	題 名
昭和39年11月26日	相 良 惟 一（京大・教・教授）	「タイの山地系住民の教育について」
昭和39年12月7日	園 部 逸 夫（京大・法・助教授）	「タイの地方制度」
	森 山 徐 一 郎（京大・工・教授）	「タイ・マレーシアにおける非鉄金属について」
昭和39年12月12日	安 芸 岐 一（東大・名誉教授）	「東南アジアにおける水利開発の問題点について」
昭和40年1月19日	滝 本 清（京大・工・教授）	「タイ・マレーシアにおける地質鉱床」
	吉 住 永 三 郎（京大・工・教授）	「タイ・マレーシアにおける地質鉱床の探査」

国外からの訪問者（昭和39年11月1日から昭和40年1月31日まで）

昭和39年11月12日	Prof. George P. Mardock, Dept. of Anthropology, University of Pittsburgh.
昭和39年11月17日	Dr. Hla Maung Htway, Colombo Plan Trainee. Dr. M.O. Ghami, Vicepresident of Dacca University.
昭和39年12月2日	Mr. C.S. Ford, President of HRAF.
昭和40年1月20日	Mr. Charles E. Wyzanski, Director of Ford Foundation.

関係者往来（昭和39年11月1日から昭和40年1月30日まで）

	出 発	帰 国	行 先
西 占 貢	39.11.11		タイ・インド
戸 田 圓 二 郎	39.11.11		タイ・インド
藤 吉 慈 海	39.11.13		タイ・ビルマ・カンボジア
横 田 実	39.11.16	39.11.27	タイ
遠 藤 丞	39.11.16	39.11.27	タイ
滝 本 清	39.11.21	39.12.20	タイ・マレーシア
吉 住 永 三 郎	39.11.21	39.12.20	タイ・マレーシア
猪 木 正 道	39.12.5	39.12.16	タイ
前 川 暢 夫		39.12.25	タイ
口 羽 益 生		39.1.10	タイ・マレーシア
本 岡 武		40.1.20	タイ
香 西 茂	39.12.9		タイ・インド

松尾新一郎	39.12.20	40. 1.17	タイ
日比野丈夫	39.12.22		マレーシア
中村孝志	39.12.22		マレーシア
藤原利一郎	39.12.22		マレーシア
船越昭生	39.12.22		マレーシア
泉井久之助	39.12.27		欧州・タイ
川口桂三郎	39.12.28		タイ・マレーシア
久馬一剛	40. 1. 4		タイ・マレーシア
古川久雄	40. 1. 4		タイ・マレーシア
藤本勝次	40. 1.11		タイ・マレーシア
富士岡義一	40. 1.13		タイ・マレーシア・カンボジア
高坂正堯	40. 1.26		タイ

あ と が き

マラヤ稲作シンポジウム特集号（2巻3号）につづいて、『東南アジア研究』2巻4号をお届けする。『東南アジア研究』もこれで創刊以来2カ年を経たことになる。本年度における発刊は5冊を数え、初年度のおくれをとりもどしてようやく季刊の体制にもちこむことができたのであるが、この実績をもってすると、来年度は通常の季刊号4冊の外に特集号1冊を加えた5冊を刊行することが可能となるであろう。東南アジア研究センターの官制化とともに、すぐれた学術雑誌としてますます発展させていきたいものである。現地調査を基礎とする原稿が次第に増加してきたのは、当センターの趣旨からいっても望ましいところである。調査発足以来まだ日が浅く十分な整理期間をもたぬために、これらの多くが現在では予備報告としての形をとらざるを得ない。本号においては、飯島茂・本岡武・渡部忠世・森山徐一郎・南勲の諸氏から寄稿をうけ、これに石井米雄氏の連載第4回めの原稿と、J. バジリー教授の特別寄稿とを加えた。現地からは矢野暢氏の貴重な調査地便りをはじめとして、タイ・カセツェート大学留学中の福井捷朗氏、エール大学留学中の酒井敏明氏からの通信があった。図書紹介は、東南アジア研究者同志の情報交換のために非常に意義が大きいものであり、本号にも諸氏から貴重な原稿をよせていただいたが、この図書紹介の原稿が比較的集まりにくいのが編集者の悩みである。今後のさかんな投稿を待ち望む次第である。

また本号において、東南アジア研究センター官制化を目前にして、昨年12月狭心症のため急逝された棚瀬襄爾幹事をしのんだ。つつしんで哀悼の意を表する。博士の旧友堀一郎氏および当センター本岡武幹事に故博士の思い出をしるしていただいた。

本号における原稿依頼から校正にいたる編集業務は、坪内良博君（文・大学院社会学専攻）に担当してもらった。同君の協力にたいして心から謝意を表する。投稿者の多くが、海外生活中であるので、校正には当センターの事務の諸氏の応援を頼んだ。短期間における小人数による作業であるので、読みにくい個所が生じた場合にはお許し願いたい。

最後に、いつものことながら、本号の出版においても、中西印刷にはいろいろと無理な注文をさせてもらった。中西亮氏を中心とする同社の協力に対して心から御礼申しあげる。

編 集 委 員